

2021年度 学校評価報告書

対象期間： 2020年4月1日 ～ 2021年 3月31日

学校法人 センチュリー・カレッジ
専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー



I. 2021年度 学校関係者評価委員会 開催記録・議事録

1. 日時及び場所：

- (1) 日時：2021年7月14日（水）18:30～20:30
- (2) 場所：オンライン会場

2. 出席者

(1) 学校関係者評価委員

- 松崎 充意（一般財団法人石川県予防医学協会 理事長）
- 苗代田 美代子（保護者）
- 川端 瑞枝（保護者）
- 長谷田 敦志（公立南砺中央病院 リハビリテーション室主任）
- 田中 茉美（医療法人社団博友会 金沢西病院 作業療法士）
- 野倉 克利（医療法人積仁会 岡部病院 作業療法士）

(2) 本校教職員（オブザーバー）

- 加藤 謙一（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 校長）
- 黒田 智利（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 事務局長）
- 山本 達也（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 事務局次長）
- 狩山 信生（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 理学療法学科 学科長）
- 種本 美雪（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 作業療法学科 学科長）
- 曾山 薫（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 理学療法学科 教員）

3. 欠席者

なし

[敬称略]

4. 会議次第

- (1) 開会
- (2) 校長挨拶
- (3) 2020年度 自己点検・評価 報告
- (4) 各委員会の2020年度活動報告と2021年度重点目標および取組み
- (5) 伝える力について
- (6) 閉会

5. 配布資料

- ・評価シート 2021年度 学校評価
- ・[資料 1] 学校概要
- ・[資料 2] 2020年度 決算報告書
- ・[資料 3] 各委員会の重点目標及び施策

6. 議事録

- (1) 校長挨拶

- (2) 委員の紹介

(3) 2020年度 自己点検・評価 報告 (事務局次長 山本)
学校概要、決算報告書の一部を抜粋して説明

(4) 2020年度 自己点検・評価 報告および質疑応答

※各委員の評価・意見については「Ⅱ. 2020年度 自己点検・評価 及び 学校関係者評価 報告書」に記す。

(5) 各委員会の2020年度活動報告と2021年度重点目標および取組み

松崎委員) 国家試験の結果がコロナ禍ということもあって5年間で最低の結果ということを見ました。全国的にはどういった傾向だったのでしょうか。

学科長狩山) 国家試験問題は過去を遡ると5年に1回の周期で難易度が上がる傾向がみられ、全国統計は合格率8割を切ることがあります。昨年度はそのような全国的に厳しい結果が出た年でした。これは予期していた部分ではありましたが、コロナ禍において臨床実習をはじめ学習面や国家試験の支援に先手を打てず、学生と共に空気を作ることが出来なかった反省が残ります。

学科長種本) 作業療法学科は概ね全国平均に近い結果でした。今年度、国家試験対策委員会では3日間の強化セミナーを企画しています。早い段階から国家試験の空気作りをして1人も不合格者をださない取り組みを継続していきます。

松崎委員) 国家試験不合格の卒業生の方々へのフォローが何かありましたら教えて下さい。

学科長種本) 作業療法学科では早期から学校に登校してもらって、教員が授業の合間に問題集や参考書を使った自主学習をサポートしています。

学科長狩山) 理学療法学科は不合格者のうちの半数が毎日学校に通って自主学習をしており、一部の科目については講義の再聴講をしています。また「ティーチングアシスタント」制度を導入して、実習や実技面のアシスタントとして授業に参加してもらったり、後輩の疑問や質問等に答える役割を担ってもらい、卒業生にとっても国家試験の勉強になる環境をつくっています。

遠方の地元に戻った卒業生については、不定期にリモートで自主的な学習を促すことをしています。

(6) 伝える力について (副委員長 曾山)

野倉委員) 直接的に取り組みの効果が影響しているかは分かりませんが、態度の領域では入職してくる学生の面接のスキルが上がった印象があります。とても緊張する場面でも受け答えができる学生が増えたと感じています。

田中委員) グループワークの授業について二つお伝えします。一つは学生さんに「伝える力」が何につながるのかということ伝えて授業をされていたのでしょうか。臨床で患者さんに伝える力も必要ですし、他職種とのコミュニケーションのためにも大切ですし、その点について十分に理解をされたうえでグループワークに取り組んでいたかが気になります。もう一つは、グループワークを国家試験の対策に取り入れられるのではないかと感じました。

学科長狩山) 本校では参加型授業を少しずつ取り入れてきましたが、「伝える力」の取り組みをきっかけに具体的に科目を絞って検証を積みながら、組織的に参加型の授業を試行錯誤してきました。グループワークの授業では、自分たちで意見を出しながら人に伝えることが何につながるか、ということを生徒自身に考えさせてきました。また、それらが臨床実習や就職面接で応用が利くことを生徒自身が感じて学んでいます。

グループワークは国家試験の対策においては良い影響があると思います。学校は題材や環境を提供することはできますが、国家試験合格のカギは、いかに全体で良い空気を作

るかにかかっていると思います。自分が学んで人に伝える、学生同士で教え合い、補い合って自分に自信持つという流れが、良い空気を作りだすことに繋がると考えていますので、今後も積極的に取り入れていきます。

学科長種本) グループワークでホワイトボードを用いてディスカッションをしたり、知識を共有して教え合う循環が国家試験対策につながっていたと感じています。この「伝える力」の取り組みをきっかけに、今後もグループワークの授業を継続していきたいと考えています。

田中委員) グループワーク、ワークショップの試みができるところは3年制であることや、専門学校の強みだと思いますので、独自性を出していけると良いと感じました。

以上

(記録：橋本尚子)

Ⅱ. 2020年度 自己点検・評価 及び 学校関係者評価 報告書

対象期間： 2020年4月1日 ～ 2021年3月31日

評 価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

1. 教育理念・目標				
自己点検・評価【項目】	前回	【評 価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
1-(1) 学校の理念・育成人材像・教育目標は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	3.2	↗ 3.3	学 校	3.0 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本年も「教職員の理念の理解度や解釈に差がある」との記載がありました。建学の精神(理念)、教育理念、教育目標、教育方針、そして育成すべき人物像のフロー図を上位(もしくは担当委員会)の教職員でもう一度議論し、それをたたき台として全員の教職員で議論した後、結果的に今の理念に落ち着くのも再認識の機会として良いし、新しいものが出来上がるのも良いと思います。 ・ 3年制であることは短期教育で就職を目指すのか、専門的な知識をより多く学べる場なのか、他の養成校との違いを全面的にアピールしても良いのではないかと考えます。 ・ 医療介護分野だけでなく、幅広い分野で活躍できる人材を理念に基づいて育成して頂きたいと思います。 ・ 学生との面談、外部の意見を積極的に取り入れ、就職率も高いレベルで維持されている。 ・ 退学率がやや高いことが気になります。
1-(2) 医療福祉業界の要望・意見等を踏まえた学校の将来構想を策定しているか	3.0	↗ 3.2	学 校	
1-(3) 学校の理念・育成人材像・教育目標などが学生・保護者等に周知されているか	2.9	→ 2.9	学 校	
1-(4) 育成人材像・教育目標は、医療福祉業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.1	↘ 2.9	学 校	
【課 題】	【今後の改善方策】			

1-(1)	<ul style="list-style-type: none"> 学校の理念は定められているが浸透していない。また各人において理解度と解釈に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 各科が専門に特化した各科の理念や教育目標を明確にし、周知する。 教育目標は、具体的に提示しその達成度を評価するとともに、社会情勢も鑑み、定期的に更新を行う。 継続的に目につくような学内の場所に掲示する。
1-(2)	<ul style="list-style-type: none"> 現状、様々な取組はなされているが、長期的な将来構想が明確化されておらず分かりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の基本方針、経営の方針を文言化し明確にしていく。 定期的な協議を設けて教職員間の意見聴取の場を設定する。
1-(3)	<ul style="list-style-type: none"> 作業療法学科内にて学生の育成像は掲げているものの、学生への周知および保護者への周知には至っていない。 今年度はコロナ禍で1年生の保護者との接点が殆どなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページのニュースや学生・保護者のページに、保護者説明会や学事的なご案内を載せる。 適切に明文化する。ホームページやパンフレット、学生便覧、シラバスといった学生・保護者が閲覧可能な媒体に掲載する。 入学後に理念や育成人材像・教育目標のほかにも3年間の流れや実習に関わることなど大まかな流れも含め、保護者説明会等を行い周知を図る。 入学後の学生、上級学年へも周知する機会を設けて卒業および卒後のロードマップをイメージできるようにする。
1-(4)	<ul style="list-style-type: none"> 社会情勢に対応した医療福祉業界のニーズを把握する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習地訪問先、非常勤先などの外部との関わりの中で、生の声を聞くようにする。

【 成果・特記事項 】

1-(2)	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の下、オンラインにて臨床実習指導者会議を実施して臨時実習の教育について意見交換ができた。
1-(3)	<ul style="list-style-type: none"> パンフレットやオープンキャンパスなどの説明会でも参加者に周知するようになった。
1-(4)	<ul style="list-style-type: none"> 新カリキュラムが開始した年度であるが、スムーズに導入ができた。 教育課程編成委員会の定期開催により、外部のニーズを聴取できる機会を持っている。 コロナ禍の下、オンラインにて教育課程編成委員会を実施でき、学生教育について意見交換ができた。

2. 学校運営

自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】	
2-(1)	医療福祉分野の職業教育を念頭においた運営方針・事業計画が策定されているか	3.2	↗ 3.3	学 校	3.0	・各組織、委員会に分化したことで効率が良くなった反面、負担・

2-(2)	意思決定機能、指示命令系統は組織機能図において明確化されているか	2.7	↗ 2.8	学 校	<p>責任が多いのであれば検討も必要かと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示系統を整理し、各役職の職務分掌を整理されたら良いと思います。 ・働きやすい職場づくりは最終的に学生への良い教育に繋がるので、引き続き教職員がよりいきいきと働ける生産性の高い職場づくりをお願いしたいと思います。 ・コロナ禍でオンライン授業など大変だったと思いますが、早急に対応できていたと感じます。 ・学生、教職員の皆様にとってより良い学校となるよう運営して頂きたいと思います。
2-(3)	前項（意思決定機能、指示命令系統）は有効に機能しているか	2.5	↘ 2.4	学 校	
2-(4)	就業規則は整備され、教職員が常に確認できるようになっているか	2.4	↗ 3.2	事 務 局	
2-(5)	人事、給与に関する規程等は整備されているか	2.9	↗ 3.1	事 務 局	
2-(6)	学校運営に関する情報公開が適切になされているか	3.6	↘ 3.4	自 己 評 価 委 員 会	
2-(7)	組織体制の整備、情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.8	↗ 2.9	事 務 局	

【 課 題 】		【今後の改善方策】		
2-(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・指示系統は決まっているが、例外が多く存在する。 ・組織図があるのか、あったとしても伝達されていないのでわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指示や確認事項の系統を整理する。 		
2-(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・各組織業務が重なる部分があり、指示命令系統が不明確な時がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各組織、委員会ごとに、具体的にどのような業務を行うか、併せて指示命令系統を記載したマニュアル作り。各組織・委員会の役割分担を全員が確認できるようにする。 ・各部署間の連絡機能を強化する。 		
2-(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・就業規則は配布されたが、細かい変更点（具体的に言うとイベント等により発生する振替休日・超過勤務時の処理）等が更新されていない。 ・就業規則は整備されている。一方、有給取得するよう事務側から通達があるが、有給取得状況を知る手段がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・変更・追加（超過勤務、振替休日等の一部改正）があればすぐに更新する。 		
2-(6)	<ul style="list-style-type: none"> ・情報公開はされているが、最新でないものも含まれており、十分とは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ管理者を明確に定める。 		
2-(7)	<ul style="list-style-type: none"> ・情報システム化の転換期にあり、複数のシステムを一本化して効率化に繋げていくこと。 ・教員はオンライン講義に切り替えて早急に対応したが、職員全員が対応で 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいシステムや運用ルールの実際の普及。職員が活用して勉強会も行いながら問題点の修正を進めていく。 ・学校の決定や方針に従い、組織人として決められたことを各人が果たす 		

	<ul style="list-style-type: none"> きるとは言い難い。 ・教員全員に iPad を貸与されたものの個人の力量に任されている部分が多い。 ・在宅勤務を推奨されている中、どの基準で在宅勤務とするのか、整理されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> こと。 ・iPad をどのような教育活動に用いることができるのか、具体的に検討する。 ・在宅勤務のあり方（業務内容、管理方法など）について検討する。
【 成果・特記事項 】		
2-(5)	・時間外手当や学校行事の休日出勤等の基準が明確に設定され、労働環境の改善につながった。	
2-(7)	<ul style="list-style-type: none"> ・全館 Wi-Fi の整備、情報システムの活用が進み、以前よりは円滑に情報共有が図られるようになった。 ・企画推進室を新設し、情報システム等を活用した業務の効率化を検討している。 ・マイクロソフトオフィスに一元化する方向で来年度に整備を進めている。 ・テレワークに備え、業務パソコンを順次ノートタイプに移行している。 	

3. 教育活動

自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
3-(1) 学校の理念・育成人材像・教育目標に沿った教育課程(カリキュラム)が体系的に編成されているか	3.1	↗ 3.3	教育課程編成委員会	3.2 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で実習等が中止になったと聞き、残念です。机の上の勉強ももちろん大切ですが、実習等で得られるものも大切です。代替になるような授業等、どんな風に行っているのか、また、カリキュラムを従来通りに実施できているのか知りたいです。 ・コロナ禍で教育システムの構築は大変なこととは思いますが。病院でも面会制限があり、患者カンファレンスなど工夫して行っていることも多いので新しい手法で取り組めるような柔軟な対応が必要となっています。 ・コロナ禍での副産物として、研修がリモートに変更となり、以前より受けやすくなったという話を聞きます。教育力・指導力を
3-(2) 学科の修業年限に対応した教育到達レベルを明確し、学習時間の確保はされているか	3.2	↗ 3.4	教育課程編成委員会	
3-(3) 医療福祉分野の病院施設や団体との連携により、実践的な職業教育の視点にたった教育課程(カリキュラム)の編成・見直し等が行われているか	3.3	↗ 3.5	教育課程編成委員会	
3-(4) 医療福祉分野の病院施設における実践的な職業教育(実習等)が教育課程(カリキュラム)において体系的に位置づけられているか	3.3	↗ 3.5	教育課程編成委員会	
3-(5) 実習や講義等を委託する場合、教育目標及び教育到達レベルを明確にしているか、情報共有を図っているか	3.2	→ 3.2	教務委員会	
3-(6) 授業評価の実施体制を整備し、定期的に評価を実施しているか	3.4	↗ 3.5	教育課程編成委員会	
3-(7) 授業評価結果に基づき、目標設定および授業改善が行われているか	3.1	↘ 2.9	教育課程編成委員会	
3-(8) 外部(卒業生、保護者、医療福祉分野の病院施設や団体、地域社会等)からの評価の体制を整備し、定期的に評価を実施しているか(アンケート、訪問・会議によるヒアリング等)	3.3	↘ 3.1	自己評価委員会	

3-(9)	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.0	↗	3.3	教務委員会	<p>向上するためのリモート研修の機会を増えしていただければ先生方のモチベーションもより上がり、学校としてのレベルアップと均一化も図れると思います。</p> <p>・様々な学生がいる中でそれぞれの意欲を引き出すのはかなり難しい事かと思いますが、真摯に学生と向き合って頂きたいと思います。</p>
3-(10)	資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか	3.3	↗	3.4	国家試験対策委員会	
3-(11)	学校の理念・育成人材像・教育目標の達成に向けて計画的に人材（専任教員・非常勤講師）を確保しているか	3.2	↘	3.1	学 校	
3-(12)	医療福祉分野の病院施設や団体との連携において、要件を備えた人材（非常勤講師）を確保しているか	3.6	↘	3.2	学 校	
3-(13)	教職員の専門的知識・技能等を修得・向上のための組織的な取り組み（講座・研修の受講、資格取得支援、各種学会・会議への参加等）はあるか	3.2	→	3.2	学 校	
3-(14)	教員の教授力（インストラクションスキル）を向上させる組織的な取り組み（講座・研修の受講、専門家による指導等）はあるか	2.8	↗	2.9	学 校	
【 課 題 】			【今後の改善方策】			
3-(1)	・毎年変化する学生の学習力や意欲に対しての指導方法や取り組みの多様化が求められている。	・現在の学生に対する接し方が最善かどうか外部者を交えて検証が必要。				
3-(5)	<ul style="list-style-type: none"> 臨床実習について、指定規則改正に伴う過渡期にあり、実習形態・到達目標の設定など臨床現場と共有していく必要がある。また、臨床現場における職員間の情報共有の問題もある。 講義委託する場合、情報共有は図っているが教育到達レベルについて説明できていないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 臨床実習指導者会議での意見交換はもちろんのこと、会議に出席していない指導者とのやり取りを丁寧に行う。情報共有によって現場の状況を把握し、協力体制を作っていく対応を行う。 シラバスに基づき講義内容の確認と教育到達レベルについて、非常勤講師と情報共有を行う。 				
3-(7)(13)(14)	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価についてフィードバックを行っているが、各教員の裁量に任されているため、授業改善に至っているか否かを確認を行う必要がある。 授業評価結果について担当者の主観的要素（講義態度等）と客観的要素（定期試験の点数等）で判断されている。また複数の改善案を持つことができず、「行いたい授業」になっていると感じる。 授業評価に基づいた振り返り・授業改善への取り組みを計画的に行う必要がある。 授業評価の質問項目、聴取方法など、検討が必要と感じる。またフィードバックの活用方法についても有効な手段等を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員による授業評価や研究授業など、私たちが考える「良い授業」に近づけるための試みが必要だと思います。個々人の判断によるのではなく、学内研修の一環として積極的に取り組むべきである。 授業評価のフィードバックの方法・計画を作る。また、授業評価の結果をフィードバックに用いやすいような工夫（点数化の仕方、項目、記入の時期等）をして効果判定を十分にする必要がある。 オンラインでの研修受講の促進、内部教員間での意見交換の機会を増やす。 				
3-(10)	・国家試験対策では前年度との比較でどのように変化させたのかわかりにくく、コロナ禍において考える間もなく、実習指導や国家試験対策を進める必要があった。	・時間割を組んだ中で、国家試験対策の講義を進める。				
3-	・組織的な取り組みとしては、不十分さはあるものの、教員については、学	・教育に関する専門家の研修を復活。				

(13)(14)	<p>会・研修会への参加を実施している。一方、事務職員の研修会や自己研鑽等の取り組みについては乏しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、社会全体に研修機会が減ったこともあるが、講師招聘や対面の研修機会を十分に確保できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者の管理職研修の受講
【 成果・特記事項 】		
3-(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で養成各校がやむを得ず実習を中止しているなか、対面型の臨床実習を4週間実施できた。学内実習では動画を準備し、対面型の臨床実習に近い実習を実施することができた。 	
3-(1) ～(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・指定規則改正に伴い、一定の整備が行えた。 ・事前に教員間で十分に話が出来た。 ・教育課程編成委員会を通じて現場の先生方の意見を伺いながら教育課程の見直しが行われている。 	
3-(10)	<ul style="list-style-type: none"> ・入学年度から国家試験対策の取り組みをしている。 	
3-(11)	<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムに即し、新しく制定された科目に対しても必要な人材を確保できた。 ・オンラインでの講義や実習を導入し、新たな非常勤講師を確保できた。 	
3-(13)	<ul style="list-style-type: none"> ・4名の教員にて学会参加（オンライン）にて自己研鑽を実施できた。 ・今年度、博士号1名、修士号1名取得予定。 	

4. 学修成果

自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
4-(1)	就職率の目標値を設定し、具体的な対策を実施しているか	3.7	⚓ 3.3	就職支援委員会	3.2 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者（学生）としての学校に対する満足度を向上させるためには、1. 楽しく元気に卒業まで勉強できる。2. しっかりとした学力がついて卒業できる。3. 国試に楽々合格できる。4. 希望の就職先に就職できる。ということが大きな要素だと思います。そのことが達成できるように、これからも引き続きご尽力をいただければ幸いです。なお、それに
4-(2)	資格取得率の目標値を設定し、具体的な対策を実施しているか	3.6	⚓ 3.3	国家試験対策委員会	

4-(3)	退学率を把握し、その上で低減に向けた具体的な対策を実施しているか	2.5	↗	2.9	教務委員会	<p>繋がるのが1年次の学生生活だと思います。鉄は熱いうちに打てというように、入学直後の1年次に、これからの人生に対してのモチベーションを上げるような研修をお願いしたいと思います。</p> <p>・コロナ禍の中で学生との距離を保っていくのは難しいと思います。在宅学習時間が増えたと思いますが、その学習方法も教えていくことも必要かと思います。新しい形が求められるとも考えます。</p>
4-(4)	卒業生のキャリア形成（社会的な活躍や評価）を把握し、学校の教育活動の改善に活用しているか	2.7	↘	2.6	教育課程編成委員会	
【課題】			【今後の改善方策】			
4-(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の目標値を設定し、就職委員中心に取り組んでいるが、去年は作業療法学科でも不合格者が増加した。 ・学生の就職活動への意識が低く、教員からの働きかけを行うが取り掛かりが遅い。1回目の受験で内定をもらえない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も、求人数の低下が予測されるので、オンラインを活用し、就職活動の指導・相談、就職活動の推奨、企業ガイダンスの企画などをすすめる。 ・新カリキュラムの「基礎セミナー」「キャリアデザイン学」の講義を通して、1年次から就職活動への意識づけを行う。外部講師による模擬面接の実施を講義に取り入れる。 				
4-(1)～(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率、資格取得率を上げるための講義構成はなされていると感じるが、学生の理学療法士、作業療法士になりたいという意欲を向上させる対策が必要である。 ・いずれにおいても、新型コロナウイルス感染拡大の影響の予測と対策が後手に回ったことが反省点としてある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスや入学当初より、理学療法士・作業療法士の業務に興味を持たせる仕掛けを作る。 ・社会での必要とされる人材を明示し、それに向けた説明を繰り返す。 				
4-(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度コロナ禍の影響をより強く受けた1年生に対する対策が、結果として不十分だった。 ・オンラインでの講義によって、学生の問題把握と対応が遅れがでた。 ・コロナ禍において、学生の思いや未成熟な考えを把握しきれていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生相談の充実化。（カウンセリング・学生相談の担当課の設立、日本学生相談学会等の研修に参加等） ・早期に、かつ複数の職員による学生把握に努める。 ・退学発生時により一層振り返りを行う必要があると思う。振り返りをして対応の引き出しを増やす試みが必要だと考えます。学科問わず、事例検討や検証を行う委員会や部署を設ける。 ・40人入れて40人出す事が現状において可能かどうかの検証から始める。 ・クラス内の学生間の交流、学年間の交流を促進するとともに、個々の学生の把握を行っていく。 				
4-(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生のキャリア形成は限定的であり、全体の把握は難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒後数年の経過について情報共有できる体制を整える。定期的に卒業生 				

<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は対面での研修や懇談の機会が減少し、例年よりも動向を把握しきれていない。 ・卒業生との交流が年々減っているような印象がある。 ・卒業教育は実施していない。 	<ul style="list-style-type: none"> と連絡を取り、得られた情報を教育活動の改善につなげる。 ・現場の上司への聞き取りを増やしていく。(実習地訪問、非常勤講師としての来校時) ・同窓会の活動を活発に行い状況を把握する。
---	--

【 成果・特記事項 】

4-(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の下、約 70 施設の病院を招いて、オンラインでの就職ガイダンスを実施できた。 ・専門家講師による就職支援のセミナーを実施した。
4-(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のメンタル面でのケアを教員全員が意識している。また結果的に退学してしまう学生がいても面談記録等をみると学生家族とも密に連絡をとり、学校外でも生徒を気を配っており、頻回な面談やケアにより退学を思いとどまる学生も見受けられる。 ・北陸ブロック連絡会総会及び研修会にて「教員と学生相談の協議による学生支援」を受講する機会を得られ、学生支援に関して考える機会が出来とてもよかった。

5. 学生支援

自己点検・評価 【項 目】	前 回	【評 価】	担当委員会	学校関係者評価 【評 価 ・ 意 見】
5-(1) 学生の進路・就職に関する体制（運営組織、制度）は整備され、有効に機能しているか	3.6	↘ 3.4	就 職 支 援 委 員 会	3.2
5-(2) 学生相談に関する体制（運営組織、面談記録、定期的な実施）は整備されているか	3.4	↘ 3.1	事 務 局	
5-(3) 学生の経済的支援に関する体制（奨学金制度、減免制度）は整備され、有効に機能しているか	3.0	↗ 3.3	事 務 局	
5-(4) 学生の健康管理に関する体制（運営組織、健康診断の実施）は整備され、有効に機能しているか	3.6	→ 3.6	事 務 局	
5-(5) 学生主体の課外活動（学生会活動、ボランティア活動、クラブ活動等）を奨励・支援する体制はあるか	3.4	↘ 2.9	学 生 会 支 援 委 員 会	
5-(6) 前項（課外活動支援に関する組織体制）は有効に機能しているか	3.2	↘ 3.0	学 生 会 支 援 委 員 会	
5-(7) 学校生活指導・勉学指導への支援は行われているか	3.4	↘ 3.3	教 務 委 員 会	
5-(8) 保護者へ学校情報の提供や面談を行い、適切に連携しているか（ホームページ、保護者報告会等）	3.4	↘ 3.2	教 務 委 員 会	
5-(9) 卒業生のフォローアップ体制はあるか（卒業研修、同窓会組織、1年後訪問、ホームページ等）	2.5	→ 2.5	学 校	
【 課 題 】	【今後の改善方策】			

5-(1)~(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・学生相談に関する学校としての体制（運営組織、定期的な実施）は整備されていない。 ・新型コロナウイルス感染拡大が家計やアルバイトの収入を見越して入学・在学している学生に影響している。自然災害などにより同様の事態が生じることも考えられるため、特定の減免制度を検討する必要がある。 ・学生の経済的支援に関する体制について、独自の奨学金制度はない。社会人入学者の条件付きでの減免制度が作成されたが有効に機能しているかは現段階では不明である。 ・学生への経済的支援状況、面談状況が教職員で共有されておらず、各担当部署でしか把握できていない状況がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害等による経済困窮学生に対する減免制度を検討する。 ・状況に応じて奨学金制度を新たに制定する。 ・実習に関する宿泊費用等、入学前に予め概算を示しておけば、各家庭で計画的に準備できる様にする。
5-(5)(6)	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容が見えづらい。 ・コロナ禍により課外活動を制限せざるを得ない時期もあり、思うように活動ができなかった。 ・コロナの影響により、今年度の1年生は例年であれば体験できた活動が出来ていないものがあるので、2年生で活動を本格的に再開する際には、例年以上にフォローや支援を行う必要がある。 ・カリキュラムの影響もあり、学生主導になりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動日や活動内容を明確にし、参加者を増やす。 ・コロナ禍のような状況でも可能な課外活動を教員側も一緒に模索すること。 ・学年間のつながりを促進することで、各学年が支えあうシステムを作っていく。
5-(9)	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生のフォローアップについては体系化はされておらず、随時相談（就職先等）や、各担当教員の裁量で対応している。 ・コロナ禍において学校として卒業生のフォローアップは考える余裕はなかった。 ・卒業教育等で卒業生との関わりがないため、どんな先輩、後輩がいるかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業半年、1年など定期的に卒業生と連絡を取り、状況把握する体制を整える。卒業研修に必要な内容について情報収集を行う。 ・現在も学科個別などで行っているが、学校全体で卒業研修を企画する。 ・分野を問わず、定期的にざっくばらんな勉強会（講演などではなく）を開くことや、オンラインを活用した研修を検討する。 ・ホームページの更新を随時行う。 ・卒業生が参加しやすい卒業生の活躍の場、学びの場を提供する。
【 成果・特記事項 】		
5-(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言下においても、オンラインを用いて学生面談を実施できている。 	
5-(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の学生ではあるが、コロナ禍で経済状況が悪化した学生のために、学校が学生をオープンキャンパスや選抜、除雪等のアルバイトに採用した。 ・コロナ禍によるアルバイト規制によって所得が減額したため、再試験料を無料とした。 ・作業療法学科の社会人に対する減免制度は拡充された。 	
5-(5)	<ul style="list-style-type: none"> ・雪かきボランティアに登録している。 	
5-(8)	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の対応に4月早々にオンライン講義へ切り替えたことに対して保護者から高い評価を受けた。 	

6. 教育環境					
自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
6-(1)	学校施設・設備は定期的に管理・点検され教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.1	→ 3.1	備品管理委員会	3.2 <ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化はどこも避けて通れないことだと思います。温暖化による自然災害等が増えているため老朽化対策は特に必要だと思います。 Wi-Fi環境の整備が完了し、教員へのタブレット貸与は評価できると思います。 図書室の図書は厚くて重いものもあるので電子図書の導入は良いと思います。
6-(2)	教育上必要な図書が系統的に整備されているか	3.3	↘ 3.2	図書委員会	
6-(3)	実習施設や国内外の研修等は整備されているか	3.5	↘ 3.1	学 校	
6-(4)	防災・安全対策（非常時の避難、誘導対策面、危機管理マニュアルの周知）は整備されているか	3.1	↗ 3.2	事務局（庶務課）	
【課題】			【今後の改善方策】		
6-(1)	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体の老朽化が進んでいる。（特にエアコン関係）学生の学習環境に影響を及ぼすため施設整備、修繕は急務。 設備の老朽化に伴い、不備が出た時点での点検・交換となっている。管理・点検が後手に回る場面がみられる。 時間割や非常勤講師によって、プロジェクターやノートパソコンなど機材のやり繰りに困ることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化が考えられるものに関しては、点検期間の見直しを検討する。 時期をみての新規購入や定期的なメンテナンスを計画的に行う。 建て替えや大規模改修を検討していく。 指定規則改正に伴い施設、備品の整備が進んだので、今後の活用・管理・更新を行う計画を立てておく。 非常勤講師用のパソコンを増やす。 全教室に天吊りプロジェクターを設置する。 			
6-(2)	<ul style="list-style-type: none"> 電子図書を含め、整備されつつあるが、教育上必要な図書が系統的に整備されているか、という点では十分とは言い難い。 新しい書籍購入の体制が整っていない。 ITC化も進んでいることから、電子図書や文献検索システムの導入も課題となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書室の書籍について、古い本の移動、バーコード管理を行い図書室を整理する。 新刊図書の導入を図る。 			
6-(4)	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアルが作成され、各部署に配布された。対応を各自が把握すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止していた避難訓練を再開する。 			
【成果・特記事項】					
6-(1)	<ul style="list-style-type: none"> 全館 Wi-Fi 完備、教員にタブレットが一人一台貸与された。 聴診器の購入等、必要に応じて迅速に対応してもらっていると思う。 換気による冬期の寒さの対策として、石油ストーブを各教室に配置した。 				

6-(3)	・研修会案内等の情報を共有し、オンラインでの研修会参加ができている。
6-(4)	・感染対策委員会が設置され、コロナ対策の対応にあたった。

7. 学生の受入募集

自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
7-(1)	学生の募集活動において、教育成果・実績等は正確に伝えられているか	3.3	↗ 3.6	事務局 (入試課)	3.1 <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスへ参加させて頂きました。どんな環境でどんなことを学ぶのかが分かり良い構成だった。 ・今後、学生の確保はより難しい時代になるかと思えます。学校としての特長を前面に打ち出していく必要があるかと思えます。 ・前年度よりも入学者数を増やすことができたことは評価できると思えます。 ・学費の分納制度を検討してはどうか。
7-(2)	入学志願者の問合せ・相談に対する体制が整備され、情報提供（育成人材像、資格、学費・教材費、選抜方法）は適正にされているか	3.4	↗ 3.5	事務局 (入試課)	
7-(3)	学納金は妥当なものとなっているか	3.0	↗ 3.2	事務局 (入試課)	
7-(4)	入学辞退者の授業料に関して適正な扱いを行っているか	3.7	→ 3.7	事務局 (入試課)	
7-(5)	入学予定者への入学前課題等の学習指導を実施しているか	3.8	→ 3.8	入試委員会	
7-(6)	入学予定者に対してオリエンテーションを実施し、学校生活のための支援をしているか	3.5	→ 3.5	入試委員会	
【課題】			【今後の改善方策】		
7-(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな状況下でも希望者が参加できるオープンキャンパスの準備。 ・臨床実習に関わる諸費用は、費用の準備があるため早期にお知らせする必要がある。学生や保護者の中にはオープンキャンパスや進学相談会で質問して解決している方もいらっしゃるが全員ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や学生に対して、入学後、早期に説明を行い周知する。 			
7-(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の学校に比べ割高。高い理由が浸透していない。近隣校だけではなく、今後他校で学科の増設などがあった場合、学納金を比較し本校を選ばない学生が出てくるのではないかと懸念される。 ・コロナ禍においては、学納金の分割納付の希望者について考慮する必要性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学費以外での負担を抑える。 ・出入金の見直しをする。 ・定期的に他校の情報や情勢に合わせた定期的な見直しを行う。必要時には学納金の見直しや分割納付に関しても検討する。 			
7-(6)		<ul style="list-style-type: none"> ・学校・学科紹介、授業風景、学生の様子等の動画を準備する。 			
【成果・特記事項】					
7-(1)	・教員（作業療法学科）が高校2年生を中心とした学校ガイダンスへ入試課と同行し、作業療法を中心とした広報活動を継続して実施した。				

7-(1)(2)	・来年度、入学定員を満たすことができることは、適切に進められた成果だと考える。
7-(5)	・入学前課題に QR コードなどを付けて紙以外での取り組みを行っている。
7-(6)	・感染拡大のリスクがある中、新入生へのオリエンテーションを実施した。 ・入学予定者に対して、事前に学生生活における感染対策を事前に周知した。

8. 財務

自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
8-(1)	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.7	↗ 2.8	事務局 (経理課)	3.0 ・財務は学生数と直結するので、高校生へのPR活動と共に在学生の中で退学者が出ないように、モチベーションを上げるためにしっかりとしたフォローを行っていただきたいと思います。(前年同様意見) ・空調などの入れ替えは高額であるので、建物老朽化対策としての修繕計画の作成を進めて頂きたいと思います。
8-(2)	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか、また定期的に確認しているか	2.8	↗ 3.0	事務局 (経理課)	
8-(3)	財務について会計監査が適正に行われているか	3.4	→ 3.4	事務局 (経理課)	
8-(4)	財務情報公開の体制を整備し、適正に運用しているか	3.1	↗ 3.4	事務局 (経理課)	
【課題】			【今後の改善方策】		
8-(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・受験対象年齢の人口減少が今後も続くため、中期的(3~5年)には安定した基盤を確保できると思われるが、長期的(5~10年以上)には様々な要素を考慮しなければいけないため不透明である。 ・入学者数と退学者数に影響を受けるため、中長期的には安定しているとは言い難い。 ・財務状況については2018年度より決算報告書が上がっていないのでわからない。 ・来年度の入学に関しては、コロナ禍の影響もあってか県内出身者が多く、両学科とも定員に近い人数の確保が出来ているが、コロナ禍が終息した際に県外を志す人が増加することが予想されるため、その時に学生をどう確保していくかが課題である。 ・今年度に関しては退学者も多く、いかに退学者を減らすかが今後の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収支計画の見直しを徹底し、収支計画の精度を向上させる。 ・極端な減収を見据えた予算作成も行い備える。 ・最新の決算報告書を作成し教職員に共有する。 ・オープンキャンパスや進路相談会等では国家試験の合格率や就職率に関心が高いので、国家試験の合格率100%の学修成果を上げる。 ・退学に至る前に関わり、支援や精神的なケアによって退学者の抑制をより積極的に実施する。 ・学生支援体制を拡充する。 			

8-(2)	<ul style="list-style-type: none"> 年間での予算、収支計画は説明されている。定期的な確認（予算の執行状況、収支計画の状況等）についてはなされていない。 予算・収支計画は妥当なものかどうか、また定期的に確認しているかなどの情報に関してはわからない。 	
8-(4)	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ上の財務情報が最新ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> 更新を行う。
【 成果・特記事項 】		
8	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 	

9. 法令等の遵守

自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
9-(1) 法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか	3.5	→ 3.5	事務局	3.0 ・PCデータ保護や個人情報管理に詳しい専門家を招いて、まず一度研修を実施されたら良いと思います。専門家には数回監査をしてもらい、それと並行して内部監査員を育成すれば全体的なレベルアップも図れると思います。特にリモートでPCやタブレットを使用する頻度が以前より増えていると思うので、その分、リスクも高くなっていると思います。
9-(2) 学生および職員の個人情報について閲覧権限等の設定がされ、個人情報保護の対策が講じられているか	3.1	↗ 3.2	事務局 (庶務課)	
9-(3) 文書管理規程、文書管理リスト(ファイル管理簿)、決裁規程(文書処理規程)、公印管理規程が文書化されているか	3.1	→ 3.1	事務局 (庶務課)	
9-(4) 自己点検・評価の体制を整備し、定期的に評価を実施しているか	3.7	↘ 3.6	自己評価 委員会	
9-(5) 自己点検・評価結果に基づき、目標設定および改善策に取り組んでいるか	3.4	↘ 3.3	自己評価 委員会	
9-(6) 自己点検・評価結果を公表しているか	3.8	↘ 3.7	自己評価 委員会	
9-(7) 学校関係者評価の体制を整備し、定期的に評価を実施しているか	3.7	↘ 3.6	自己評価 委員会	
9-(8) 学校関係者評価結果に基づき、目標設定および改善策に取り組んでいるか	3.4	↘ 3.2	自己評価 委員会	
9-(9) 学校関係者評価結果を公表しているか	3.8	↘ 3.7	自己評価 委員会	
【課題】			【今後の改善方策】	
9-(1)	<ul style="list-style-type: none"> 適正な運営がなされているのか、情報がない。 			<ul style="list-style-type: none"> 教職員への報告や情報開示の機会を設ける。
9-(2)(3)	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報に関する意識が低い。 閲覧制限の必要なもので制限設定がされていないものがある。 			<ul style="list-style-type: none"> 研修などを実施し意識を高める。 閲覧者可能者の明確化。

	<ul style="list-style-type: none"> ・文書は管理されているが文書管理規程が作成されていない。 ・文書管理規定、決裁規程、公印管理規程が文書化されているか、不明です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・規程等の周知をする。 ・文書管理規定を作成する。
9-(5) (8)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価結果に対する改善策の作成が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標設定や改善策を公表して、教職員に周知する。前期終了時点での中間評価を行い、年度末に到達度合いを確認する。
【 成果・特記事項 】		
9-(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に自己点検を行い、改善されている。 	
9-(7)	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は感染症の影響により、学校関係者評価委員会は紙面での開催となった。 	
9-(8)	<ul style="list-style-type: none"> ・改善取り組み「伝える力」が今年度で完了した。3年間通して取り組んだことは成果と言える。 	
9-(9)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページにて情報公開を行っている。 	

10. 社会貢献・地域貢献

自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
10-(1) 学校の教育資源や施設を提供し、社会貢献・地域貢献を行っているか	3.3	⚓ 3.0	事務局	3.2 <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士・作業療法士の育成自体が地域貢献の一つと云えると思います。志を持った学生の育成をお願いします。なお、地域ボランティアについては無理強いにならないよう、敷居が低いものでも良いと思います。学生時代にボランティア活動を知ること自体が有意義でもありますし、卒業し働いていく中で社会貢献などの意識は職業柄高くなると思います。(前年と同意見) ・検温器具の貸出などであると助かります。
10-(2) 地域に対する生涯学習事業（公開講座、教職員の出張講座）の提供や教育訓練（公共職業訓練を含む）の受託等を実施しているか	3.2	⚓ 3.1	教員広報委員会	

【 課 題 】		【今後の改善方策】
10- (1)(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・個別で部署が要請に対応しているが、学校として計画的に行っているとは言えない。 ・コロナ禍のような状況でも可能な社会貢献・地域貢献を模索し実施することが必要だと思う。 ・年々、社会貢献意識が低下しているように見受けられる。 ・教育訓練に関して受託されておらず未実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や業界のニーズを探っていく。 ・現在行っている活動を継続するとともにホームページ等でもPRし、回数・活動範囲の拡大を図る。 ・学生、学生会が主体的に動けるように教員側も積極的に促しが必要。 ・コロナ禍でも行える社会貢献・地域貢献について検討する。 ・感染状況を見て、分散で参集したり、丁寧に対策を講じながら地域貢献の方策を探る。
【 成果・特記事項 】		
10-(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会開催時の会場提供、現場の理学療法士への研究機材の貸し出し、地域包括支援センターの事業等へ参加をしている。 ・新型コロナウイルス感染拡大の影響はあったが、今までの活動や窓口となった方たちとのかかわりは維持できている。 ・雪かきボランティアなどの貢献を行っている。 ・学校利用を促進し、社会貢献・地域貢献を行い、学校の知名度を上げるよう実施してはどうか。 	
10-(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・公共職業訓練生を毎年受け入れている。今年度は公共職業安定所からの訓練生を2名受託した。 ・県士会の依頼を受け、予防事業などの生涯学習事業の提供はできている。 	